

報道関係各位

2025年3月13日
株式会社LIXIL

横須賀市港湾部担当者インタビュー： 港湾の社会課題解決に向けて、民間ならではのアイデアを

株式会社LIXIL（以下LIXIL）は、横須賀市のうみかぜ公園に隣接する平成地区8護岸の約400mに、既設防護柵のすり抜け防止対策として、後付け可能なグリッドフェンスを寄贈しました。設置から1か月経った今年1月某日、LIXILの提案にご協力いただいた横須賀市港湾部の方々にインタビューを実施。港湾部の仕事や課題、すり抜け防止対策の後付けフェンスについてお話を伺いました。



■寄贈までの経緯

- 2021年8月、港湾エリアで発生した防護柵からのすり抜け転落事故を受け、国土交通省港湾局は全国の自治体に対し、既設防護柵にネットやロープなどですり抜け防止の対応を要請。
- 2023年4月、国土交通省港湾局と日本港湾協会から新たな防護柵の安全基準ガイドラインが示され、新設する防護柵については「格子の内法寸法は10cm未満が望ましい」とされた。
- 各自治体は既設の防護柵に金網や樹脂製ネットを張るなどの緊急措置を取ったが、耐久性や景観の維持の問題から、改善が求められているケースも多数存在した。
- LIXILは既設防護柵への対策として、グリッドフェンスを既設防護柵に後付けするアイデアを提案。2024年12月、平成地区8護岸の既設防護柵にグリッドフェンスを寄贈した。

◆参加者

高橋 学氏（横須賀市港湾部 港営担当課 課長 ぶ頭管理事務所長）
水越則之氏（横須賀市港湾部 港湾管理課 港湾管理係 係長）
佐々木佑香氏（横須賀市港湾部 港湾管理課 総務係）

■2021年の緊急措置：護岸防護柵をめぐる課題

水越氏：2021年8月に発生した防護柵のすき間からのすり抜け転落事故を受けて、同月に国土交通省港湾局より既設防護柵への緊急措置を求める事務連絡が発出されました。続いて2023年4月には「防護柵は縦柵構造を採用することが望ましい」とともに、縦格子の内法間隔は10cm未満とすることが望ましい」という新基準が設けられました。

2021年の依頼に対しては急ぎの対応が求められたので、すぐ手に入る材料でかつ短時間で施工できるよう、既設防護柵に金網を樹脂製の結束バンドで留める対応をしました。うみかぜ公園付近の防護柵は約400m、海辺つり公園が約520m、ほか含む全域となるとかなりの長さになりますが、横須賀市では10日間ほどで、人が立ち入るエリアの緊急措置を必要とする既設防護柵（概算1,100m）への対応をすべて完了させました。



水越則之氏
横須賀市港湾部 港湾管理課
港湾管理係 係長



高橋学氏
横須賀市港湾部 港営担当課
課長 ぶ頭管理事務所長

高橋氏：当時はスピードが最優先でしたので、事業者にご相談しながら考えた対処方法で施工しました。既設防護柵の格子内法寸法は15cmあり強度的には問題がなかったので、すき間を埋めるのが最善策ということでした。釣りやいたずら目的でネットを切られる心配があるので樹脂製のネットは避けました。金網が錆びることについては想定内で2、3年のスパンで交換していく予定でした。

この緊急措置に対して国からの資金や物資といった補助はありませんので、護岸を有する全国の管理者はどう対応していくかという点で同じ悩みを持っていると思います。新しいものを造るときと比べると、維持管理上で発生する劣化や破損に対する予算を獲得するのは難しい傾向があります。幸い2021年は台風による被害がなかったので、防護柵の緊急措置に予算をひねり出すことができました。そんな中で、LIXILさんより今回のありがたひご提案をいただいたのです。



うみかぜ公園に隣接する平成地区8護岸の金網による緊急措置を施した防護柵。改修前の状態は近くで見ると樹脂製の結束バンドが劣化で壊れてしまい、金網自体の劣化も目立つ。（2024年11月27日撮影）

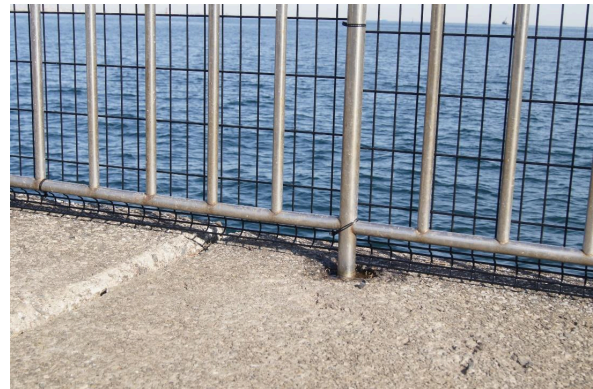
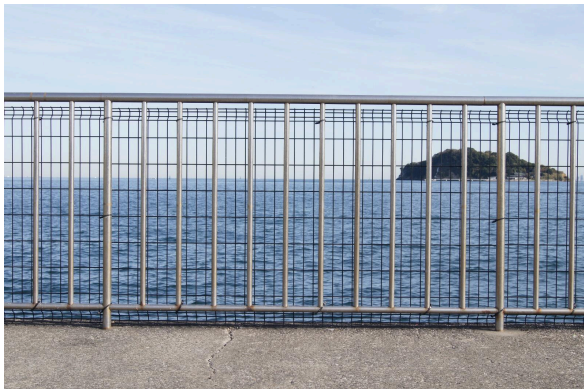
■住宅用フェンスを活用するというアイデア——既設防護柵のすり抜け防止対策

LIXIL担当者：開発初期の段階で国土交通省港湾局の方に横須賀市をご紹介いただき、2024年3月に防護柵の現状について横須賀市港湾部にヒアリングさせていただきました。

実際に現場の状況を見ると、樹脂製の結束バンドが劣化で壊れ、金網がフェンスから剥がれている箇所が多数見受けられました。主な原因は経年劣化ですが、一部の利用者による故意の破損などによって経年劣化が早く進んだことも推測されました。

本来なら既設防護柵を新規の防護柵に交換するのが一番良い方策だと思いますが、その場合、製品代だけでなく、既設防護柵の撤去費用、廃棄費用、地盤の修復費用などが発生します。今回は費用を抑えるために、既設防護柵を活かしながら長寿命化するご提案をさせていただきました。それが、既設防護柵にLIXILの量産品を後付け設置するという方法です。

そして、LIXILのメッシュ型のスチール製グリッドフェンスをうみかぜ公園近くの平成地区8護岸に設置いただくことになりました。長年エクステリア商品を開発・製造してきたLIXILのこれまでの知見を活かしたご提案ができたのではと考えています。公共の安全性確保という社会課題解決に向けた民間の取組みとして、全国各地の類似現場に対する事故防止の啓発につなげたいという想いで、今回のグリッドフェンスは横須賀市への寄贈という形式を採り、2024年12月に設置が完了しました。



スチール製グリッドフェンスを設置した既設防護柵。上部は手すりより低い位置に設置し、手をかける邪魔にならないようになっている。また下部は袋ゴミなどがすり抜け難いよう下棧の下まで伸ばしつつ、排水を阻害しない位置に設置している。（うみかぜ公園に隣接する平成地区8護岸）

■防護柵改修後に実施したアンケート調査：利用者からは高評価

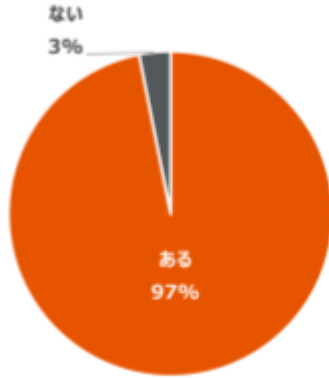
LIXIL担当者：寄贈したフェンスが設置された1カ月後の2025年1月、設置現場付近に来訪する64人に3日間アンケート調査[※]を行いました。アンケートに回答いただいた方からは、「以前は子供の目線の高さに樹脂製の結束バンドやネットの針金が出ていて危険を感じていた」などのご意見がありました。また、「WEBですり抜け防止ネットが新しくなったことを確認したので子供を連れてきました」という方もいらっしゃいました。

スチール製グリッドフェンスを付けた防護柵に対して、全体としては好意的な回答が多く、業界新聞やWEBなどさまざまなメディアでも取り上げられたことから、一定の成果があったと考えております。

※LIXIL調べ。アンケート実施日：2025年1月17日～19日、対象者：釣りや散歩など設置現場来訪者男女64人

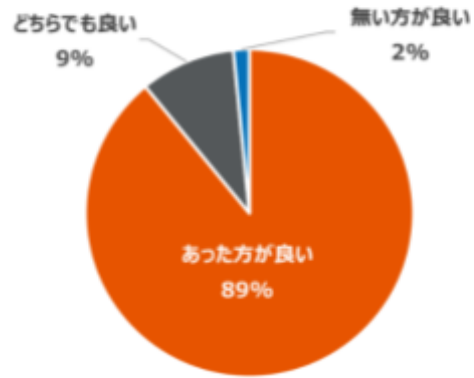
■防護柵の格子のすき間からの転落を防止するため、グリッドフェンスを設置しています。そのことで安心感がありますか？

■ある 62人(97%)
■ない 2人(3%)



■防護柵の格子のすき間が広い場合は、すり抜け防止対策があった方が良いでしょうか？

■あった方がほうが良い 57人(98%)
■どちらでも良い 6人(9%)
■無い方が良い 1人(2%)



■官民連携による社会課題への挑戦——防護柵改修後の横須賀市担当者の感想



佐々木 佑香氏
横須賀市港湾部 港湾管理課 総務係

佐々木氏：私自身が3児の母親なので、アンケートにもあった子供連れの方々と同じ目線ですが、施工確認の時に「結束バンドの位置をなるべく小さな子供の目線から離れた場所に付けられないか、結び目を海側に向けて人に当たらないようにできないか」という要望と、「フェンスのずれ落ちがなく安全な設置」が両立できるかをご検討いただき、LIXILさんには大変感謝しています。また、アンケートでも多くの方が「改修した防護柵には安心感がある」とお答えくださっていますので、ご家族でうみかぜ公園に来園される皆様が、安心して景観を楽しんでいただけるのではないかと思います。

維持管理の視点では、この護岸は定期的に清掃業者が入っていますが、私たち市の職員も週に1～2回ほど見回りをして、壊れた金網を補修し、金網にからまったゴミなどを回収しています。まだ設置したばかりですので、今後の維持管理の作業量は

分からない部分もありますが、現時点では、補修の作業時間は短縮され、本質的な業務に注力することができています。この状態が1年後、2年後も続くことを期待しております。

高橋氏：歩行者に加え、防護柵に直接触れる機会の多い釣り人にとっても使いやすい形になり、喜んでもらったことはとても良かったと思っています。佐々木の話にもありましたが、定期清掃、我々による見回りとメンテナンスなど、頻繁に人の目が入っているのは、散歩する犬や鳩のような動物に対する配慮という点も大きいです。

LIXIL担当者：アンケート調査の時に、小型犬を連れた女性から「以前の防護柵の時に、金網に引っかかっていた釣り針が散歩中の犬に刺さり病院に連れて行ったことがあったので、それ以降は防護柵の近くは歩かないようにしている」というお話を伺いました。また釣り人は今回の改修で防護柵がきれいになり、釣り針が引っかかりにくい太さになったのは良かったとおっしゃっていました。

水越氏：防護柵の足元部分のすき間について、劣化を抑えるためにも雨水や越波した海水の排水を阻害しないように広めに施工することを提案したことがありましたが、LIXILさんからの10mm開けるといふ提案の設置位置は、利用者によるフェンスのずれ落ちの防止や結束バンドへの負荷低減につながるものでした。手すりの結束バンドも不要となったことで、多くの利用者が喜んでいふというアンケート結果を見ると嬉しくなりますね。

水越氏：2021年の緊急措置を講じてから3年後のまさに交換・改修のタイミングで、LIXILさんから今回のご提案をいただいたことで、良いものが設置でき、コスト削減にもなっています。国土交通省では「民間提案型官民連携モデリング事業」を実施しています。これは民間提案に基づく新たな官民連携手法を、民間事業者と国土交通省が一体となって、地方公共団体に広げ、課題解決に応じていくものだと思っています。LIXILさんからのご提案は、まさにこうした流れのひとつだと思います。

高橋氏：本当にありがたいというのが正直な気持ちです。横須賀市は寄贈商品で現場の補修と改善を実施でき、LIXILさんは公共への施工事例を示すことができました。お互いに良いと取りができたと思っています。宅地境界に使うフェンスを防護柵に付けるという発想は、我々にはまったくありませんでした。フェンスは支柱込みでしか販売されないものだと思ひ込んでいましたし(笑)

2022年に、経営企画部に民官連携推進担当課ができ、ハード、ソフトに限らず、民官が連携してオープンに進めていきたいという機運が生まれています。

他の防護柵については、LIXILさんと共に長期で様子を見ながら考えていきたいと思っています。同じ悩みを持つ自治体から見学の希望がありましたら、ぜひ現場をご案内して、詳細をご説明させていただきたいと思っています。

LIXIL担当者：我々としても、台風の影響なども見てみたいので、まずはこれから1年間しっかり観察していきたいと思っています。

高橋氏：海を仕事で使う方、観光で海に訪れる方、海辺を散歩される方などさまざまいらっしゃいますが、海は国民の財産であり、特定の誰かに帰属するものではありません。冒頭でもお伝えしましたが、横須賀市では、まちづくりのランドデザインのひとつとして「海洋都市」を掲げており、より海に親しめるようにしたいと思っています。人が入る場所では安全がなにより大切です。皆さんの要望と安全のバランスを考えながらこれからも日々努めて参ります。

About LIXIL

LIXILは、世界中の誰もが願う豊かで快適な住まいを実現するために、日々の暮らしの課題を解決する先進的なトイレ、お風呂、キッチンなどの水まわり製品と窓、ドア、インテリア、エクステリアなどの建材製品を開発、提供しています。ものづくりの伝統を礎に、INAX、GROHE、American Standard、TOSTEMをはじめとする数々の製品ブランドを通して、世界をリードする技術やイノベーションで、人びとのより良い暮らしに貢献しています。現在約53,000人の従業員を擁し、世界150カ国以上で事業を展開するLIXILは、生活者の視点に立った製品を提供することで、毎日世界で10億人以上の人びとの暮らしを支えています。

株式会社LIXIL（証券コード：5938）は、2024年3月期に1兆4,832億円の連結売上高を計上しています。

LIXILグローバルサイト：<https://www.lixil.com/jp/>